

## 第6章 学校及び寮の施設・設備等

本校は、金沢医科大学に隣接し、校舎の面積、各室の用途・面積及び図書・機械・器具の点数は次のとおりである。

校舎	専用	共用	教室	講義室	実験実習室
	3,879.88m <sup>2</sup>	2,379.24m <sup>2</sup>		4室	4室

図書 機械・器具	図書	学術雑誌	視聴覚資料	機械・器具	標本・模型
	4,344冊	2,720冊	321点	270点	138点

・ 各室の用途及び面積

室名	専用・共用の別	収容人員	面積 (m <sup>2</sup> )	備考
看護A棟1階 校長室	専用	1	26.10	
教員室	専用	9	68.40	
講師室	専用		29.25	
事務室	専用	5	26.10	
副校長室兼応接室	専用	4	26.10	
会議室	専用	10	42.30	
学生ラウンジ室	専用	30	104.40	
調理実習室	専用	9	104.40	
職員ロッカー室	専用		6.85	
宿直室	専用		15.85	
湯沸室	専用		11.55	
パッケージ室	専用		16.20	
便所	専用		13.05	
看護A棟2階講義室NO4	専用	75	135.23	
看護実習室	専用	50	183.63	
リネン、準備室	専用		62.78	
処置室	専用		10.80	
沐浴実習室	専用	50	208.80	
看護B棟1階講義室NO1	専用	50	177.23	
講義室NO2	専用	50	119.48	
倉庫	専用		18.00	
機械室	専用		10.23	
便所	専用		12.00	
看護B棟2階講義室NO3	専用	50	119.48	
多目的教室	専用		145.73	
準備室	専用		24.75	
セミナー室	専用		12.40	
便所	専用		23.99	
看護B棟3階、4階寮室	専用	39	407.70	
調理室	専用		19.36	
洗濯室	専用		11.44	
乾燥室	専用		9.52	
洗面室	専用		11.22	

便所	専用		22.54	
看護C棟1階食堂	専用	212	299.98	
厨房	専用		103.28	
食品庫	専用		10.23	
事務室	専用		9.90	
休憩室	専用		10.50	
仕込室	専用		7.70	
パッケージ室	専用		14.40	
便所	専用		2.09	
脱衣室（入浴用）	専用		27.69	
浴室	専用		31.03	
機械室	専用		59.74	
看護A棟3階～6階寮室	専用	80	907.20	
調理室	専用		43.20	
洗濯室	専用		23.76	
乾燥室	専用		17.92	
洗面所	専用		21.76	
便所	専用		52.64	
医学部図書館閲覧室	共用	166	552.00	
書庫	共用		581.40	
医学部体育館	共用		1,245.84	2 F
合計			6,259.12	

## 1 学校の施設・設備の整備状況

### (1) 教育目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性

#### 【現状の説明】【点検・評価並びに長所と問題点】

建物の構造・防火・非難・衛生・設備等の整備については、建築後34年を経過するものの、現在のところ特に支障はない。しかし、建物の構造において多少不備な箇所（主要構造部の一部鉄筋の露出、外壁のひび割れ）が見られる。

#### 【将来の改善・改革に向けた方策】

教員室会議室・教材準備室・個別学習指導室の拡充が必要である。建物については年度計画として改修を予定している。

## 2 学生寮の施設・設備の整備状況について

### (1) 寮数の適切性、妥当性

#### 【現状の説明】

本校が学生寮を設置している意図は①学習成果の向上期待、②団体生活による社会性取得、③経済性配慮、④私生活の安全保持、⑤自己の健康管理向上等である。

収容能力はA棟（1人部屋）80室、B棟（1人部屋）39室で計119人であり、現

在（平成18年度）の入居状況は96名である。

#### 【点検・評価】

- ① 昭和48年に建設されたものであり常備家具の破損、建物全体の汚染が進んでいる。健康的な学習設備が考慮されていない。
- ② 寮内に学習室がない。

#### 【長所と問題点】

寮の併設は入学を希望する高校生や保護者にとっては経済的魅力の一つになっており、学生募集の観点で有効である。しかし、近年認可された看護学校は寮の併設はしない方向で指導を受けているため、寮を併設している学校が減少している。

生活体験の乏しい学生の集団生活であり、きめ細かな生活指導が必要である。寮母が1人と他は教員が補足的に業務しているが、学生にとっては生活と学習の区別がつきにくく常時教員に監視されている心理を与え、窮屈である。また教員にとっては教育・研究の時間を寮生の生活の指導に費やさねばならない負担が大きい。

#### 【将来の改善・改革に向けた方策】

寮費を増額し、施設・設備の整備および美化を図り、生活環境の改善と安全管理の充実を目指す。

寮母の交替職員を確保していきたい。

## （2）施設・設備の衛生・安全を確保するためのシステムの整備状況

#### 【現状の説明】

安全確保のための施設・設備装置は定期的に保守点検を行っている。防火警報設備としては自動火災報知設備、ガス漏れ火災警報設備が設置され、非常時において迅速な連絡体制がとられるように図られている。学内の清掃については専門業者と契約を結び、全施設について環境美化に努めている。また、生活環境及び衛生保持のため、毎年計画的に全寮室の1割程度を更新整備して、寮内の美観の回復及び損傷拡大の防止に努めている。

#### 【問題点】

- ① 34年を経過し、室内の汚染、家具の破損が進んでいる。
- ② 調理室がガスレンジ使用となっており、ガスレンジの元栓の閉め忘れやふきこぼれなど、火災の原因になりやすい状況がある。
- ③ 洗濯機が各階2台で、使用時間が集中し、多くの学生が次々に使用するため故障が起りやすい。また、ゴミとりの対策など洗濯機の管理が上手にできないのも故障の原因となっている。
- ④ 給湯の設備がない。

**【将来の改善・改革に向けた方策】**

- ① 電磁調理器に変更したい。
- ② コインランドリーを設置し修理など業者管理に委託し、学生が使いやすくする。
- ③ 給湯の設備が必要である。